開所日時　月・水・木・金曜日
15時～18時
土曜日　10時～13時

児童デイサービス

あいさつはすべての基本

児童デイの始まりはあいさつから。次々に集まってきて、みんなそろったら輪になってあいさつをします。あいさつには無関心だった児童が輪に加わるようになった時は喜びが込み上げてきます。

自分の名前を呼ばれてもじっと天井を見つめていた児童が声には出せなくても何かのしぐさで返してくれます。自分の名前を声に出して伝えてくれる児童もいます。

そんな時、こどもたちの気分や体調の良し悪しが感じらます。やはり元気なあいさつができた時は次の体操も元気になってきます。

帰りのあいさつはいつも元気がいい

一日の予定が終わるとまた、みんなで輪になって帰りのあいさつです。落ち着いた時間が流れます。

早くお母さんの待つ家に帰りたい気持ちを抑えてみんな「さよなら」のあいさつを待っています。一番静かな時間が流れます。

帰りのあいさつで一日の感想を聞きます。

8月の定例勉強会パート2

内　容：現場のヘルパーとしてのあり方と
今後のヘルパー資格動向について
日　時：平成１９年８月７日（火）
午後７時～８時
平成１９年８月９日（木）
午後７時～８時
講　師：愛知江南短期大学
社会福祉学科　大崎千秋氏
場　所：一宮まごころ１階「ふれあい広場」

～介護保険とインフォーマルサービス～

介護保険制度がスタートして７年、公的制度を利用する要介護者も年々増加し、今や介護保険制度は当然の権利として、利用者や介護者に浸透してきました。だが、緊急なケアや、在宅での療養が重度・長期化した為におこる、いわゆる介護保険利用限度額をオーバーする人にとっては、まだまだサービスの不足は補いきれていません。この公的制度での不充分なサービスに対応できる受け皿として、インフォーマル（従って非公的）なサービスが重要となってきます。

≪～介護保険予防介護サービスの仕組みと緊急性≫

事例：介護保険の予防訪問介護サービス利用者／ひとり暮らし／転倒され腰を痛め、在宅での暮らしに支障があり入院をすすめられているが、本人は入院ではなく、自宅での生活を選択／現在受けているホームヘルプサービス量では、在宅での暮らしが不十分／訪問回数を増やす必要がある／

状況と対応：現在の予防訪問介護サービスでは、通所介護（デイサービス）と在宅介護（ホームヘルプサービス）のセットサービスである為、全体の利用限度額は余っていても、利用していない通所サービス部分を、在宅サービスに振り替える仕組みになっていません。そのため、介護保険制度では在宅への訪問回数をこれ以上増やすことはできず、急きょ、介護保険見直しまでの間だけでもと、当事業所の有償在宅支援活動が、始まったケースです。

<インフォーマルなサービスの担い手の確保>

このように、公的サービスだけでは在宅での暮らしが支えられない現状は、高齢社会に拍車がかかる今後も増えると思われます。しかし、今、当「一宮まごころ」の有償在宅支援活動のような、インフォーマルサービスを手がける事業所はごく僅かで、その担い手も数少ないのが実情です。

この重要な課題である、担い手育成への事業には行政からの支援もいただけるよう期待したいものです。

ミニデイだより

思い出のアルバムから

「あんた、若かったねえ」
「ハワイアンのフラダンス面白かったわ」
「Ｏさん、結構男前でかっこいい」

まごころのアルバムを囲み、お話が次々と出てきました。

ミニデイでは、以前から音楽やリズムが取り入れられ、まごころの総会、ふれあいまつり、保育園での七夕祭りに演奏し、参加して来ました。

その生き生きとした皆様の笑顔は、１０歳くらい若く見え、写真に収められています。思い出とともに、「人生をいつまでも大切に生きる」糧となっています。「桑名の殿様。今頃、どのへんにいるのかな？」とWさん。鬼籍に入ったＴさんを偲びながら、アルバムをめくりました。

アルバムを見ていた90歳のＦさんがご自身の写真をひ孫さんに送りたいと希望が出ました。頭にハイビスカスを飾り、カメラに収まるその姿は素敵でした。又、新しい１ページが生まれました。

研修生の感想文

この度、あいち福祉医療専門学校より、作業療法士を目指す学生が、在宅での研修を行いたいと「一宮まごころ」に相談がありました。学生が障害者の方への理解を深めることは意義のあることと思い、利用者さんにご協力を頂きました。以下はその感想文です

『地域実習の感想』

あいち福祉医療専門学校
作業療法学科３年　　榎本　宅真

今回私は、ある事故で26歳の時に頸髄損傷となり 50 年間寝たきりの生活を送っている75歳の男性(以下Ａさん)宅で三日間、在宅実習をしました。

二日目の夕方にＡさんのある言葉を聞き強く心を打たれました。それは「なってしまったものは仕方ないよ。そこからどう生きていくかという事だけを考えて生きてきたんだ。」というＡさんの今までの人生を物語ったような一言でした。いつも後を振り返っていた私にとって、転機となる瞬間でした。

Ａさんは長い期間リハビリを続ける中で自ら書字機能を取り戻し、今までの世界にはなかった川柳と冠句という趣味に出会いました。持ち前の性格により得た数え切れない程のトロフィーから、幅広い活動に参加して多くの人々と出会ってきたＡさんの姿が思い浮かんできました。

三日間の実習を通して、私の将来について力を与えて頂いた事や、貴重な経験をさせて頂いた事をいかして、今後生きがいという大切なものを見ることの出来る作業療法士を目指します。

ふれあいサロン
アラカルト

・毎週木曜日　午前10時～12時
・場所代として１回一人100円
（コーヒーが付いてます）

地域の皆さんの集いの場として開設したまごころのふれあいサロンも２年余りになりました。

当初、参加してくださる方がいるのかしらと不安はありましたが、今は、毎週18名ぐらいの方が楽しみに来られます。昔話をしたり、歌を唄ったり、マージャンをしたりと、各々自由に仲間と気軽におしゃべりしたり、

時には、ボランティアさんの余興もあり、又、小木曽利子さんの指導によるパッチワークも好評です。

古布などの端切れが見事な作品になり、参加者は、自分の作品を誇らしく思っておられます。

一度のぞいてみて下さい。

とても、和やかで賑やかな場所です。